

## 食欲不振と ADL 低下を主訴とした子宮留膿症の 2 例

いま むら か よ さ とう え み  
今 村 加 代 佐 藤 絵 美

キーワード：子宮留膿症，食欲不振，高齢者，ADL 低下

### 要 旨

子宮留膿症は子宮口閉鎖により子宮腔内に膿が貯留する疾患であり，高齢女性によくみられる。子宮頸管拡張による排膿と抗菌薬投与で改善することが多いが，子宮穿孔をきたし腹膜炎を生じることがある。悪臭を伴う帯下と画像検査で子宮内に液体貯留を認めれば容易に診断が可能である。一方で産婦人科以外の科を受診する場合もあり，診断が遅れる可能性もある。今回，食欲不振と ADL 低下を主訴に他科を受診し画像検査にて子宮留膿症と診断された症例を経験した。症例 1：95歳，食欲不振と軽度 ADL 低下あり近医受診。補液・抗菌薬投与で改善せず救急外来紹介。CT 検査で子宮留膿症と診断，排膿ドレナージで症状改善し再発なく経過した。症例 2：81歳，膝痛増悪し軽度の ADL 低下にて整形外科受診。発熱と食欲不振を認め内科にて CT 検査施行し子宮留膿症を疑われ産婦人科紹介。排膿ドレナージと子宮腔内洗浄・抗菌薬投与するも，膿貯留を繰り返すため子宮摘出術を施行した。

### 【はじめに】

子宮留膿症は，子宮内の感染に子宮頸部の狭窄や閉塞が加わって子宮腔内に膿が貯留する疾患であり，産婦人科医にとっては悪臭を伴う帯下を認め子宮腔内に液体貯留を確認すれば容易に診断可能である。しかし，一見感染症と判断されない症状でかかりつけ医を受診したり，急性腹症で救急外来を受診する例もあり産婦人科を初診としない

場合がある。今回，食欲不振と ADL 低下を主訴に受診し子宮留膿症と診断された症例を経験した。

### 【症 例 1】

患者：95歳  
主訴：食欲不振，軽度の ADL 低下  
現病歴：元々，日常生活動作は杖歩行にてほぼ支障なくおこない定期的に自宅と施設で交互に生活していた。食欲不振，軽度の ADL 低下を認めるも経過観察されており，その後37°C台の発熱を認め近医受診。補液と抗菌薬（ニューキノロン系）を投与されたが改善せず，救急外来を紹介受診と

Kayo IMAMURA et al.

雲南市立病院 産婦人科

連絡先：〒699-1221 島根県雲南市大東町飯田96-1

雲南市立病院 産婦人科